

令和5年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 本年度の重点目標 ～生徒・保護者を支援する視点で～

- (1) 自律を促す生徒支援の推進
・基本的な生活習慣の確立 ・豊かな人間性を育む ・保護者、地域、関係機関との連携
- (2) 充実した学習支援の推進
・生徒が学ぶ授業をデザインする ・確かな学力の定着を図る ・学習評価に関する研究
- (3) 自らの将来を思い描くための進路支援の推進
・人生を切り拓くためのキャリア教育の推進 ・授業、行事、課外活動等の計画的な連携
- (4) 特色ある学校教育の推進
・普通コース・DAコースともに、生徒自らが考え、表現する機会を充実させる ・主権者として未来社会を築く力を育む

2 本年度の経営方針

活力ある学校づくりを目指して教育活動を推進する — 安全・安心で笑顔があふれる学校に —

- (1) 教職員相互の信頼に基づく、一体化した学校運営に努める。
- (2) 新たな学習指導要領を踏まえた生徒主体の魅力ある授業づくりに努める。
- (3) 多様な価値への理解を深めるとともに地域に根差した開かれた学校づくりを推進する。
- (4) 危機管理と健康安全教育によって、生徒の健康と安全を守る基盤を強化する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (達成状況:A=おおむね達成できた B=一定レベルまでは達成できた C=改善点が多い)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
危機管理	学校は、保護者・地域・関係機関等と連携を図り、問題発生時には、所定の「いじめ防止基本方針」や「危機管理マニュアル」等により、適切に対応している。	B	・学校における危機管理及び組織的な対応は適切になされているものと考えているが、このことについて保護者・地域・関係機関等に発信したり理解・協力を求めたりすることが肝要である。行事やPTAの取組等の機会を逃さずに情報発信に努めたい。	A	A
自律を促す	生徒が基本的な生活習慣を確立し、自律した行動ができるよう、支援がなされている。	A	・基本的な生活習慣について、三者ともに高く評価している。生徒に対して繰り返し伝えてきた「利他の心」を大切に、他を敬いながら自らを律して成長できるよう、支援を継続する。	A	A
生徒支援の推進	・学校と家庭が連携し、生徒が、自他の人格を尊重し、相互の信頼にもとづく共生社会の担い手として、適切な振る舞いができるよう、支援が行われている。 ・学校と家庭が連携し、生徒が、自ら情報を活用して物事を幅広くとらえたり、表現を工夫して適切に発信することができた りするよう、支援が行われている。	B	・学校での教育と家庭での取り組みの結果、マナー・ルールに対する意識は非常に高い。今後も学校と家庭の連携を密にして、社会の一員としての意識を高めていく。 ・保護者・教員の評価と比較して、生徒の評価が低くなっている。生徒の自己肯定感を高める取り組みを引き続き推進するとともに、生徒のレジリエンスが高まるよう日常のかかわりの中で、個に応じた支援を行う。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>・危機管理については、管理職の皆さんが地域に対して一生懸命している事の内部の皆さんへの PR 不足が少し理解不足と考えます、私は外部としてよく理解し、頑張っていると思っています。</p> <p>・自律を促す生徒支援の推進については、子どもたちは外部の人たちに対して積極的に対処し、気持ちの良い雰囲気です。(素晴らしい校風が続いている。)常に子どもたちは成長し、前向きに考えているのが生徒会、プラスバンド部の生徒に見えます。地域の皆さんは平岸高校に対しての賛辞は素晴らしいものです。自信をもって進んでください。</p> <p>・昨今の事件報道などもあって、いじめ問題には保護者の方々も心をくだかれていますことと思います。いじめ問題に気づき／向き合い／対応する時間的な余裕や力が教職員に確保されるのはもちろんですが、同時に、個々の教職員任せにするのではなく、教職員全体でこの問題にしっかり取り組む雰囲気作りなどにも学校側は力を入れて欲しいと思います。</p> <p>・自己肯定感や自己効力感の低さが日本の若者の特徴と指摘されています。これは個々の学校の問題というよりは、そもそもの子ど</p>				

<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<p>もたちが育つ環境全体によるところが大きいのではないのでしょうか。そのことをふまえた上でですが、自己肯定感や自己効力感をのばす意識的、積極的な取り組み、工夫を教職員の皆さんや学校側にはお願いしたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が、社会構造の変化に応じて入試の在り方や教育課程の再編成等を図る高等教育の動向を見据えながら、家庭や地域と円滑に連携し、生徒の主体的な学びを促進するよう取り組んでいると感じました。学校評議員の方からも、澄川地区にお住まいの方による本校生徒への信頼の声があることを伺い、挨拶や他者意識をもって行動できる姿を知ることができました。第三者から高評価は、コロナ禍後の活動再開を学校として大切にしながら、発信性のある取組を柔軟に実践されている賜物と思っております。 ・コロナ禍における発語や行動制限の影響は丸3年に及びましたので、自己肯定感やレジリエンスの力は今回の評価アンケートにおける数値の結果では汲み取れない要素もあると思われますし、早急に結果が出るものでもないと思いますので、今年度学校全体として丁寧に取り組んでいる活動を引き続き継続され、少しずつ、緩やかに力を醸成していくことでよいと思います。また、危機管理を適切に実施されているので、今後も学校安全について適切な対応を図っていただけるよう期待します。 ・高校生になってからの自己肯定感を高める取り組みは、なかなか難しいことと思います。学校生活で学習以外の場面で、個性が輝く場面があると良いのかと考えます。まずは、指導する先生方をご自身を大切にしながら、引き続きの推進をお願いいたします。 ・危機管理マニュアルやいじめ防止基本方針は、保護者や生徒にとっては、直視しない限り、なかなか自分事として理解しづらい内容であるかと思えます。しかし、起きてしまう前に少しでも地道に発信し啓発することはとても大事であると思えます。あせらず地道に取り組まれている学校のスタンスを応援しています。またマナー・ルールに関する意識が高いことは素晴らしいと感じます。自己肯定感を持つことも大事ですが、あまり過剰に意識せず自然体で少しずつ自分に自信を付けて行ってほしいと思います。 				
<p>充実した学習支援の推進</p>	<p>生徒が意欲を持って主体的に学習に取り組むよう、指導の工夫や評価の改善などの支援が行われている。</p>	<p>B</p>	<p>・生徒がより「学ぶことの意義・目的」を意識できるよう、シラバス(年間授業計画)の改訂を検討中である。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p></p>	<p>生徒の学習活動を通して、情報化社会に必要な資質やスキルを伸ばすよう、支援が行われている。</p>	<p>B</p>	<p>・一人一台端末のより一層の活用を推進していくとともに、授業の在り方そのものについてもより研究を促進していくことによって、生徒の資質・スキルを高める支援を行う。授業外の活動においても全学年共通で活用し、日々の取組を通して</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p></p>	<p>生徒の学習活動を通して、知性や感受性をいっそう高めるよう、普通コースとデザインアートコースが、それぞれ特色を生かした教育活動を工夫している。</p>	<p>A</p>	<p>・学校での学習活動を通じて、良い刺激を受け、知見や思考の広がりを感じている生徒が多い。 ・自ら「学んだ力」を活かして、自らを表現していく意欲につなげていけるよう、表現の場のより一層の提供等の支援を行っていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員として学習支援についてよく理解しておりませんが、子どもたちを見ていると、通学時・部活動等を拝見していると、子どもたち自身が自分の「伸びしろ」を前向きに考えていると感じます。誉めたたえてどんどん伸ばしてあげてください。 ・一般論として、大学に入ると学ぶことをやめてしまう生徒・学生は少なくありません。受験・受験勉強にも強く制約をうけるので難しい面はありますが、学ぶ楽しさや意義を感じる機会が高校時代により多く設けられることを望んでいます。 ・情報化社会への対応については、教える教員の側にも、研修機会などが適切に確保されることを望みます。 ・普通科とデザインアートコースの生徒たちが、ともに表現活動で力を試し合う取組は大変素晴らしいと思っております。横断的な学びのフィールドの設定は、子ども自身が設定している自分の枠組みを打ち破り、自らの可能性を広げることにつながるものと思います。 ・平岸高校の伝統である三者会などの場面でも、生徒の日常的なプレゼンテーションの実践が生きていると感じますので、今後も学ぶ意欲を喚起する多様な取組に期待します。 ・chrome 端末の有効活用等、ICT環境を生かした教育の進展は、すでに、教師主導の枠を抜け、生徒自身の有効で効果的な活用の域になってきていることが分かり、その点も大変素晴らしいと感じました。高校生の段階では、デジタルを活用し、生きていく市民“デジタルシチズンシップ”につながる育ちの視点での見守りの大切さがあると理解しましたので、ますます情報教育を活用した学びの充実に、努めていただくよう期待します。 ・カリキュラムやシラバスは当然重要なものではありますが、まずは生徒の姿ありきで、どのようにして目標値に近づけていくかという工夫が必要かと思えます。時代の流れに合わせながら、しかし、人としての普遍的部分も考慮しながら苦勞されている先生方のご様子が目に浮かびます。お疲れ様です。 ・大学や専門学校に進学してから、または社会人になってからは主体的な学びができるか人生が変わると言っても過言ではありません。学校が提供する様々な学習環境に対して生徒さんが前向きに取り組めるようになっていくことは素晴らしいと感じます。 				
<p>自らの将来を</p>	<p>「進路探究学習」やキャリア教育の活動を通して、生徒が自ら目標を明確に持ち、その実現を具体的に目指すよう、支援が行われている。</p>	<p>A</p>	<p>・市立高校における「進路探究学習」や総合的な探究の時間におけるキャリア教育等のより一層の充実を図り、将来について自ら考える機会を提供することにより、生徒への支援を充実させていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>

思い描くための進路支援の推進	「セミナー」や校外模試、資格取得試験などの機会提供により、生徒が自ら目標を明確に持ち、その実現を具体的に目指すよう、支援が行われている。	A	・3学年の進路に対する意識は高い。今後はより早い時期に、生徒の進路に対する意識が高まるよう、「セミナー」・校外模試等の意義を丁寧に説明し、必要な支援をしていく。	A	A
	進路情報の資料や相談環境の充実により、生徒が自ら目標を明確に持ち、その実現を具体的に目指すよう、支援が行われている。	A	・進路資料室の環境整備を継続し、生徒が必要とする進路情報によりアクセスしやすい環境を整えるとともに、「進路のしおり」等を活用した進路支援を引き続き継続する。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>・保護者は子どもに期待し、子どもたちの学年別はよくわかりませんが、(アンケート回答を見ると)時間をかけての問題だと思います。しかし、子どもたちは素直に成長していると地域は拝見しております。子どもたちは日々成長しております。頑張りましょう。</p> <p>・AIによる代替など、生徒・若者にとって、進路や就職は、これまで以上に見通しが持ちづらい社会になっていくのではないかと思います。リスキリング・職業生活における学び直しが社会的な要請にもなっている中で、生徒たちに過度にプレッシャーがかかることのないような、キャリア教育、キャリア支援の展開が求められていると思います。そのようなことへの知見や構えを身につける機会が教える側にもあるとよいと思います。</p> <p>・3年間のキャリア教育の充実を意識し、校内環境や、提供資料等の在り方を刷新していく学校の取組は大変評価できると思います。多様化する高等教育の学びにつながる進路指導は、教職員の皆様にもその変化への対応力が求められると思いますが、一人一人に応じたきめ細かな進路相談を実践されており、自己実現を図ろうと悩む生徒の希望や未来のすがたを意識した指導へシフトする学校の意欲を感じております。今後も助言者・支援者としての先生方のご指導に期待しております。</p> <p>・以前と違って社会人になってからも簡単に転職できる時代です(それが良いかどうかは別として)。生徒がいろいろな方向から進路について考えられる環境を引き続き提供してください。</p> <p>・進路のしおりを拝見しましたが、先生方がここまで生徒の様々なニーズや疑問点に答えている事に驚愕しました。これは生徒さんの思いや考えを理解していないとできないことだと感じました。進路指導は一人一人「オーダーメイド」で向き合っていく必要がある労力のかかる仕事です。先生方の並々ならぬ思いを実感しました。</p>				
特色ある学校教育の推進	学校は、部活動・生徒会活動やボランティア活動を通じて、生徒の主体性や協調性を育てている。	A	<p>・多様な課外活動の機会を引き続き提供し、生徒の主体性や協調性をはぐくむ。</p> <p>・コロナ禍で休止していた「三者会」の取組を再開し、生徒が主体的に「よりよい学校づくり」に参画する機会を提供する。</p>	A	A
	学校は、ボランティア活動や地域のまちづくりに関する活動などを活用し、市立高校の生徒として地域社会の発展や課題解決に貢献する姿勢を育てている。	B	・生徒会、部活動、有志によるボランティア活動の取組、市立高校・中等教育学校が共通して取り組んでいる課外活動への積極的参加を促し、地域のまちづくりへの参画や地域社会とかわる機会を提供する。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>・自分の将来を見据えて考えることが日々現実化すると、子どもたち・保護者は多少の不安要素があると思いますが、先生たちが自信をもって取り組んでください。私たちもできる限り協力の場を考えてお手伝いさせていただきます。</p> <p>・学校や家庭という場所、そこで過ごす時間が生徒たちにとって大きな比重を占めるのはもちろんですが、それ以外にも、地域社会や政治などへの参加の機会が提供されることを願います。</p> <p>・生徒の主体性の涵養に、ボランティア活動の取組が有効であることが改めて分かりました。平岸高校は、表現活動を重視した文化的な活動を学校の特色として大切にしてきた伝統があると思っております。その伝統の中で培われたプレゼンテーション=発信力が、主体的なボランティア活動との相乗効果で、より一層高まるというイメージを持つことができました。</p> <p>・今後もグローバルな取組を大切にしつつ、多様性があり華やかな平岸高校の風土が醸成されていくことを期待します。</p> <p>・平岸高校が、創造都市・芸術文化都市札幌の特色ある学校としてますます発展していくことを期待します。</p> <p>・コロナが5類に移行したことで、世の中の動きも変わってきました。しかし、コロナ以前と同じ環境にはなりづらいだろうと予測しています。以前とは少し違うけれど、以前と同じような活動ができることを期待しつつ、いろいろな機会の提供を願っています。</p> <p>・課外活動やボランティア活動に対する生徒さんの意識は目を見張るものがあります。学校が地域や他校まで巻き込んでおられることに驚きと感銘を受けました。多感な時期にこういった経験をするのは今後にとってかけがいのない財産になることを確信しています。</p>				

<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年の生徒が一人一台端末を使用する来年度は、今年度にも増してその活用を図り、生徒の ICT リテラシーの向上を図る必要がある。そのためには、情報機器を活用した授業の在り方について、教員の指導力・情報活用能力が求められるため、教員対象の研修(学校としての研修・自己研修)を進め、今求められる力を生徒が身につけることを支援することが重要である。 ・次年度は年次進行で導入された新教育課程の完成年度である。学習指導要領で求められている資質・能力の育成に向け、より一層の教育活動の充実を進める。
<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと地域が交わうことがコロナ禍で途切れてしまいましたが、新たな時代に入りまだまだですが、改めて「子どもたちの元気な声と行動力」を「地域」が必要としている時代になりました。平岸高校のすばらしさを生徒・教職員の皆さん、保護者、地域住民がお互いを支えあうことが今一番必要とされている時です。皆さんの頑張る姿を拝見して地域も追従しております。平岸高校の子どもたちを拝見しながら、地域はエネルギーをいただいております。これからいろいろな機会を利用して地域・家庭にアピールしてください。専門的なことは先生方にお任せします。地域でできることを協力させていただきますので遠慮なく言ってください。 ・変化が著しく、かつ、楽観的な見方が難しい時代においては、教える側にも、個々の／集団での学びの時間や機会が不可欠だと思います。学校側にはそのことへの配慮をどうぞよろしく願います。また、学校教員のメンタル不全が指摘されて久しい状況です。よい仕事をするためにも、くれぐれも健康にはご留意ください。 ・コロナ禍が明け、持続可能な教育活動の本格的な再開を感じることができました。家庭や地域からの複雑化・多様化する学校への期待は高まるばかりの現状ですが、能動的なボランティア活動の推進といった、日常の学びの成果を発揮する場面に、多くの生徒が挑戦していることが分かりました。評議員の方からも、平岸高校の生徒は品がある、という声もあり、毎年の高校入試において高倍率の学校であることも含めて、今後も憧れの学校であり続けてほしいと思います。 ・創造性のある活動を推進することは、平岸高校の王道だと思いますので、今後、より一層の特色ある取組に期待しています。 ・情報機器の活用については、一部生徒の方が先をいっている可能性もあると思います。道義的に正しく使えるように技術面のみならず、常識的なことが身につくように支援することも合わせてお願いいたします。 ・新教育課程の完成年度を迎えたり、ICT活用の授業の組立だったり、先生方がますますお忙しくなることと思います。どうぞ、ひとりで抱え込まず、チームワークで乗り切ってください。 ・通常の学習だけでなく、ITC に対する対応、課外活動・ボランティアへの取り組み、進路指導まで、先生方の活動は広範囲にわたっています。お一人お一人が全ての業務を専門レベルでこなすことは難しいので、ぜひともチームワークで生徒さんに向き合ってください。今後益々魅力的な学校になられることを期待してやみません。